

せん孔細菌病 枝病斑の切除と対策

4月は風が強い日が多く、せん孔細菌病の感染拡大・多発が心配されます。

せん孔細菌病発生園では、薬剤防除と併せて、春型枝病斑の除去が必須作業となります。特に、春型枝病斑は開花期から確認されますが、病斑をそのまま放置しておくとう感染拡大につながります。春季に枝病斑を除去することで、夏季の果実感染が軽減されます。

発生園での防除ポイント

- ① …… 「枯れ枝の除去」と「春型枝病斑(スプリングキャンカー)の除去」 園外への持ち出し
- ② …… 重点防除時期の薬剤散布は、10日間隔で必ず降雨前の予防散布に努める
- ③ …… SSでの散布は風圧を抑えて、ゆっくりと丁寧に
樹全体に薬液がかかる程度の風圧で丁寧な散布をこころがけましょう。
- ④ …… 樹上灌水は可能な範囲で止める
樹上散水によって、せん孔細菌病の感染が広がる恐れがあります。ただし、玉肥大への影響や灌水を必要とする品目もありますので、ご注意ください。

① 枝の先端が枯れる症状



② 枝の中間部の芽が枯れる症状



【上記の症状が見られる場合は、見つけ次第、切除しましょう】

農作業中の安全・安心確保、事故防止のため、下記事項に注意しましょう。

◎公道に軽トラや作業車を駐車する際は、十分に安全を確保しましょう。

⇒ 特に、交通量の多い道路脇への駐車は事故の危険性が高まりますので、控えましょう。

◎SS等による農薬散布時の周辺への飛散（ドリフト）に注意しましょう。

⇒ 特に、強い風が吹いている状況での農薬散布は、園外へ飛散しますので控えましょう。

◎公道等に飛び出した樹体の枝は、切除しましょう。

次頁も必ずご覧下さい。

せん孔細菌病対策の重要ポイント

A せん孔細菌病の生態

越冬場所

- 昨年伸びた枝の落葉痕や皮目

越冬菌が潜伏する時期

- 主に9月～10月（落葉期）

越冬菌が感染する気象条件

- 強風と降雨、台風襲来時

越冬菌が発病する時期

- 4～5月。春型枝病斑となって発病

感染拡大の気象条件

- 適温：25℃（15～30℃）
- 葉：最大風速10m、降水量5mm
- 果実：最大風速5m、降水量20mm

B 農薬散布の徹底

防除暦

- せん孔細菌病対策の薬剤散布を実施していますか？
- 秋のボルドー散布は3回実施していますか？

SS関係

- 死角ができないように経路の確認をしましたか？
- 車速はゆっくり、量はたっぷり散布しましたか？

散布間隔

- 落花期から袋掛けまで、10日間隔の散布を徹底していますか？
- 降雨前に散布しましたか？

秋のボルドー散布時の注意

- 農薬がよくかかるように、徒長枝・太枝の整理を実施しましたか？

C 農薬散布以外の対策

春型枝病斑の除去

- 4月から6月まで徹底して切除しましたか？
- 枯れ枝も含めて切除しましたか？
- 切除した枝は、園外へ持出して処分しましたか？

袋掛けの実施

- 早期に袋掛けを実施しましたか？
（梅雨入り前）

かん水

- 樹上かん水設備がある場合、可能な範囲で止めていますか？

夏型枝病斑の除去

- 夏型枝病斑は切除しましたか？

防風ネットの設置

- 防風ネット・防風林を設置していますか？
（高さ3m以上）